



小野教育長の訪問記の最終回を掲載します。

## ●可能性を秘める中国との交流

今年3月の訪中では、「日中友好交流の会胎内支部」(支部長は、元中条町長の熊倉信夫氏)から2名同行していただき、心強いサポートをいただいた。また中国側でも、政府系の国際交流団体「国際友好連絡会」が温かく歓迎してくれ、友好関係構築のため尽力いただいた。

中国の各省・市政府には「外事弁」(外交担当)が置かれ、国際交流や都市間折衝などを主な職務としている。今回も、早朝から夜遅くまで我々を案内してくれたことは印象深く、行政規模の違いはあるものの、このようなセクションがあることは大いに参考にしたい。

特に、黒竜江省の外事弁は

新潟大学や新潟県庁へ派遣されていた経験を持ち、同省の綏化市との交流を歓迎している。今後、話し合いを進める上で、大きな存在になることは間違いない。両省間の交流実績のほかにも、風土や風情、景観、産業など新潟県や胎内市との類似点が多いことも、この地域の魅力である。

## 【教育長の中国訪問記】 最終回「総括」編

近く交通至便であることは、我々が旅行をするには適地だとしても、胎内市がこの地域からの観光客を受け入れる場合、かなり洗練されたプログラムが要求されることも考えられる。

中国では急速な経済発展に伴い、海外旅行ブームが巻き起こり、日本政府は中国人

向けの観光ビザ発給条件を緩和した。すでに日本各地で中国人旅行者が殺到している現実を見れば、あらゆるニーズに 대응するというよりは、胎内市の特性を活かした、独自のプログラムを提供できるかがポイントになる。もちろんその中で、市民との交流機会を設定することや、通訳の確保など中国語への対応も今後の課題だ。ともあれ、新潟とハルビン・上海は国際定期航空路で結ばれており、胎内市は玄関口となる新潟空港にも近い。新潟とハルビンの所要時間が2時間半なのに対し、ハルビン・上海間の移動に3時間以上費やし、中国の広大さを体感することになった。そこに住む13億人の人々との交流は、無限の可能性を秘めているように思えてならない。



ハルビン空港にて(3/26)

## 販売前から150名超の大行列！ 《笛吹市産桃販売》

J・A中条町ふれあい直売所(本郷)、長池農産物直売所(リッブル(築地))の両直売所で、収穫量日本一を誇る山梨県笛吹市産の桃が7月17日に販売されました。

これは、胎内市と笛吹市の姉妹都市産業交流事業として行われているもので、会場では、笛吹市境川支所地域住民課の職員がお客様に桃を手渡しました。

当日は真夏日となりました



が、高品質の桃1・5kgが500円で購入できるとあって、両直売所ともに午前9時の販売前から大勢の人が、ふれあい直売所では開店30分前に150名を超える人で行列ができていました。先頭の方に話を伺ったところ、なんと7時から並んでいたとのこと。

用意された桃は、開店30分を待たずに両直売所とも完売。購入できず残念がついている方もいらっしゃいました。

なお、胎内市からは、10月末に笛吹市で開催される「境川町文化祭」で胎内市特産品(ワイン、ハムなど)を販売する予定です。

